

報 告 書

開 催 日 時	令和 7 年 10 月 23 日 19 時 30 分 ～ 21 時 30 分		
自治協議会名	小田町住民自治協議会	開 催 場 所	小田地区市民センター
出席議員	山口 康子、北森 徹、森中 秀哲		
	班 長	山口 康子	記録・報告者 山口 康子
参加人数	26 名		

【主な意見・提言等】

<議会運営について（政倫審）>

- ・調査請求書を行った 6 人の共通認識があったのかどうか。
- ・請求書の文言の矛盾、「議会」「議員」の不明確さがある。
- ・感覚で政倫審を行うのは危険であり、今後はこのようなことを行うべきではない。
- ・政倫審メンバー選出に疑問がある。
- ・県議会出馬を決めて、在任期間が少ない議員が行政視察に参加することは適切か。
- ・議会基本条例では「議会は市民との対話を多様に設け」とあるのに、地域意見交換会で政倫審の話の除外を求めるのはおかしい。
- ・視察に関する金額・場所、温泉等々、問題にしていない。視察そのものに真摯に向き合うべき。

<地域防災について>

- ・冒頭、議員より説明、①自治会未加入者の災害時の対応、②外国人住人を対象とした地域防災活動について、③障がい者、高齢者等の地域防災活動、④避難所についての説明。
- ・災害時の家具や家財などの災害ごみの持っていく場所はどこになるか。
- ・大山田で産廃処分場が問題になっているが伊賀市の対応は。
- ・自治会には名簿があるが、自治協には名簿がないため、住民把握が難しい。
- ・外国人は入れ替わりが激しく、地域とのつながりが希薄。
- ・小田地区は洪水や土砂災害のリスクが高く、避難所指定施設の安全性に不安がある。
- ・耐震工事に対する市の補助は。
- ・以前、タウンミーティングで高い建物（民間）と市が協定を結んでほしいと提案したことがある。地域が民間と協定を結ぶのであれば、行政から口添えをしてほしい。
- ・アパートの管理者は組合だったり、地域に居住してない場合があり、災害時に連絡等は難しい。

- ・小田は水害の歴史があり、治水対策が進んだと言ってもここまで水がきたということを残すべき。
- ・小田に線状降水帯がきたらどうなるのか。
- ・小田の広範囲の中で災害が起こったら、皆さん逃げてくださいというのが精いっぱい。安否確認までできない。

<後継者問題について>

農業、役員、民生委員の後継者の問題

- ・自治協の役員は仕事を持ちながらされている方もいるが、全員が仕事を持っていたら自治協の運営は回らない。
- ・今の世の中は70歳を超えても働いている人が多く、役員をお願いに行っても仕事しているからと断られることが多い。
- ・昔は55歳定年、60歳定年という時代だったから、定年後に自治会の役を引き受けたが、今はそういう方はいない。
- ・世の中の構造が変わっているのだから、税金を増やしてもらってもいいから市が自治協の業務を引き取ってほしい。
- ・役員の声かけを継続的にいき、民生委員さんがやっと決まったが、高齢者である。

<その他>

- ・後継者問題で、会長はどんな仕事をされているのですか。仕事内容がわかれば、後継者も出るかも。
- ・今日、これだけの人が集まっているのだから、振れることは振ってはいかがでしょうか。
- ・夏のにぎわいフェスタで熱中症になった人がいた。開催時期をずらしては。
- ・地域防災の障がい者の件。地域での見守りが必要では。ご近所さんがどんな人が住んでいるのか知ること必要では。
- ・災害時に助けてほしい人がわかればいいと思う。
- ・自助という点から、災害時の具体的な行動、どう動くべきかを決めておくことが大事と思うが、自分一人ではなかなか計画が立てられない。みんなで集まってやる機会があればと思う。

伊賀市議会議長 様

令和 7 年 11 月 18 日

上記のとおり、地域意見交換会の概要について報告いたします。

令和7年度 地域意見交換会 4班

班長 山口 康子